

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポメロ		
○保護者評価実施期間	令和6年2月1日		～ 令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	令和6年2月1日		～ 令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価総括表作成日	令和7年1月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心安全に様々な事を体験できる環境の提供。	「年間安全計画」に基づき、定期的に設備の安全確認を行い、イベントで外出する際にも必ず下見・実際に行った後には危険箇所がなかったかの振り返りを行っています。また長期休みには普段の活動とは異なった各種イベントを企画し、児童が様々な体験を通して経験を積む事の出来るよう外出する機会を増やしています。	日々行っている打合せ等でも、活動時に気づいた事やヒヤリハットを職員間で共有する。活動プログラムを作成する中で、個々の特性を考慮しながらも様々な経験を積めるよう、児童や保護者にとって魅力的と思っただけのようなプログラムの立案に努める。
2	利用児童や保護者に対する支援内容や児童の状況についての丁寧な説明。	送迎時や連絡帳、電話等で活動内容や児童の様子について細やかに伝える様にしています。また面談等で来所いただいた際には、面談に入る前に保護者より支援に関する不安や当事業所で行っている事での不明点等を伺い、その場で支援の様子を見てもらい丁寧に説明する事で家族支援に繋がっています。	より保護者から声をかけてもらい易いよう、気になった事やご要望を気兼ねなく言える関係を築く為、保護者への配慮を忘れず都度声掛けに努める。
3	将来を見据え、社会に出る為に必要とされる力を身に付ける為年齢・特性関係なく参加出来るプログラムの提供。	様々な発達段階や発達特性を持つ異なる年齢の児童が集まる小集団での活動を踏まえたプログラムを立案し、提供するよう心掛けています。	ポメロでの活動を通して社会性を身に付け、様々な体験を「怖い…」等のネガティブな気持ちではなく「わくわくする」となりえるよう、今後も職員が研修等に励みスキルアップする事で、多くのアイデアを出し合いながらプログラムを作成する事に努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	中学生の支援時間が短い。	支援級のまま中学校に進学すると、部活に所属する等の理由により支援時間を確保する事が難しくなり、その後利用を続けられなくなってしまうケースが多い。	支援内容やスケジュールを工夫し計画を立て、また保護者と情報共有する事により上手く送迎等を組み合わせる事で支援時間を確保する必要がある。
2	保護者同士が関わる機会が少ない。	昨年度末には報酬改定もあり、年度末に事業所説明会を行いました。1人しか希望者がおらず面談時にお話する形になってしまい、保護者同士が関わる機会が殆どありませんでした。	今後長期休みに行っている調理実習等の時を利用して保護者を招いたり、児童の保護者同士が関わり情報共有出来る機会を作っていきます。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会が少ない。	施設外活動時、健常児と関わる機会はあるのですが、必ずではないので機会としては少ない。	障害の有る無し・重度軽度に関わらず、児童が安心してスムーズに社会へ出ていく為に他事業所と合同イベントを計画していきます。